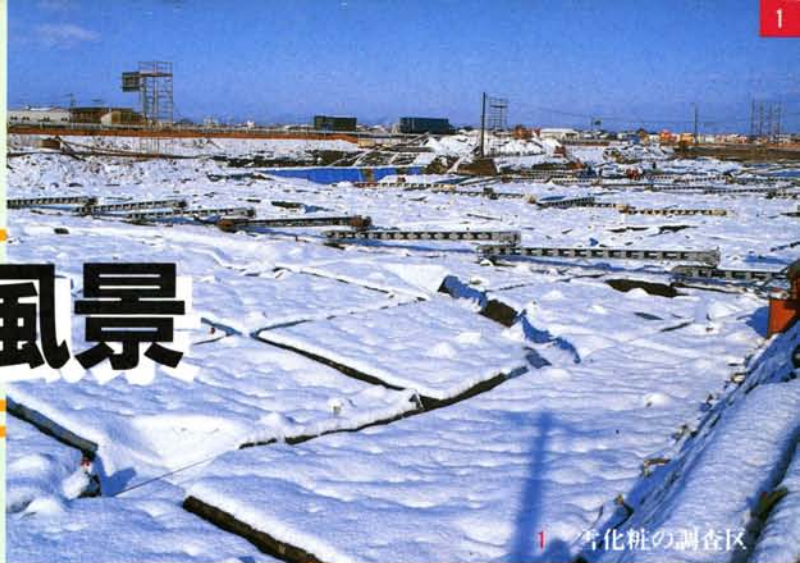


朝日遺跡の風景



2 ウェルポイントの威力

3 ウェルポイントの故障

4 ウェルポイントの故障

5 湧水との格闘

6 湧水への適応

7 雪中発掘

自然との接触







朝日遺跡を南西上空から望む







遺跡へ舞い降りる

10 南方上空から望む 11 南東上空から61E・61H区を望む 12 西上空から61H区(北地区)を見る
13 SB45周辺を東から見る 14 61H区(北地区)を西から見る

大形方形周溝墓





- 15 SZ208を北から見る
- 16 SZ208を真上から見る
- 17 SZ208付近をより上空から望む



18-19

89 B 区上面遺構群(南居住城南縁)

方形周溝墓と環濠、両者に挟まれた銅鐸埋納坑(矢印の先にある白い点)が見える。
 外環濠(左の溝)が銅鐸埋納坑を避けているように見えることに注意。通常なら環濠は方形周溝墓北溝(周溝右手部分)に重複して設けられる。

朝日遺跡の銅鐸



20 銅鐸出土状態(東から見る)

銅鐸埋納坑を少し掘り下げた状態である。左右の窪みやその壁面に見られる灰白色の土は、上部に堆積していた古墳時代以降の土層が重機など重量物のために弥生時代包含層である黒褐色砂質シルトにめりこんだあとである。

他にも中世方形土坑などが埋納坑に近接し、こうした状況にあつて銅鐸はかろうじて現在まで残り得たのである。



※銅鐸の出土時の状態²¹ とクリーニング後の状態²²

銅鐸は錆化が進行し、非常に脆くなっていた。下の写真は取り上げ後クリーニングを施し、再度埋納坑内に置いたものである。付着した土は十分に除去できていない。

銅鐸はその後、奈良国立文化財研究所において保存処理された。





朝日遺跡の防衛施設は、弥生時代後期に比べて弥生時代中期のほうがはるかに厳重な構造をとっている。これは単に防衛方法の変化として説明できるものではなく、朝日遺跡に営まれた固有の集落としてのあり方にも深く力かわる点である。とくに中期を特徴づける逆茂木は、中期前半（Ⅱ期）と同末（Ⅲb期）の二時期に存在しており、構造物としての連続性を保っている。もちろん大溝（濠）の配置等細部に差はあるが、より巨視的にみて

北居住域に付属する防衛施設であることは間違いないであり、こうした連続性は朝日集落の連続性を保証していると考ええる。

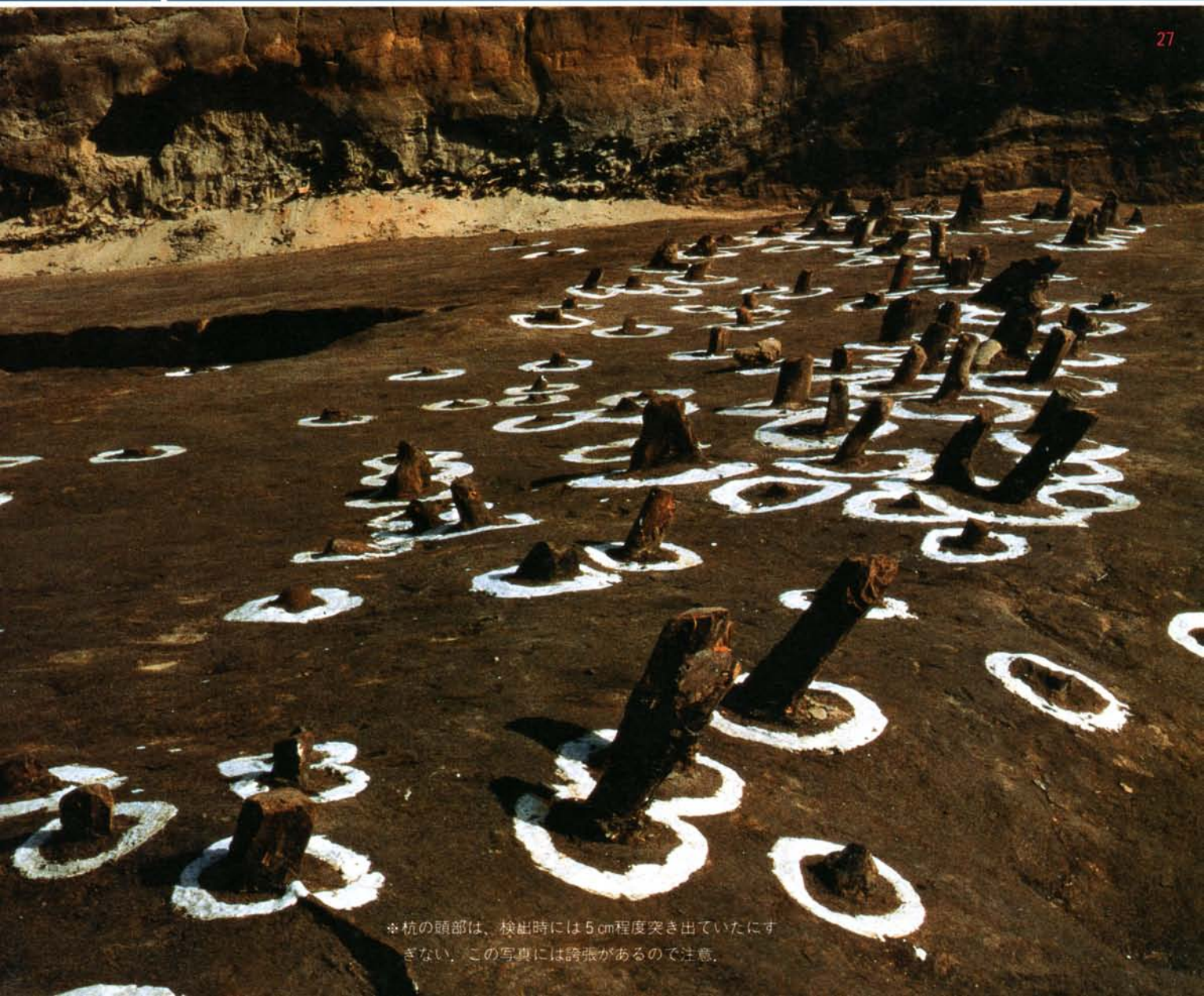
それに対して後期の南北二環濠という状況は、構造物の不連続性にも認められるように、中期とは別の朝日集落の営みを示すものであり、同系列として扱うわけにはいかないのである。

防御施設

- 23 <南居住区>弥生V・VI期遺構群。
環濠北部の切れ目を東から見る。
61H区。
- 24 24を上空から見る。
- 25 <北居住区>弥生V・VI期遺構群。
環濠東部の状態。
61E区。東から見る。
- 26 <北居住区>南縁のIIIb期逆茂木検出状態。
61A区SX02。
- 27 <北居住区>南縁の乱杭(SX1)検出状態。
61A区。西から見る。



26



27

※杭の頭部は、検出時には5cm程度突き出ているにすぎない。この写真には誇張があるので注意。



▲ SX02

▲ SX1



28 溝内に倒れ込んだ杭? 部材 SX02



30 牙製装身具出土状態 SX02西部



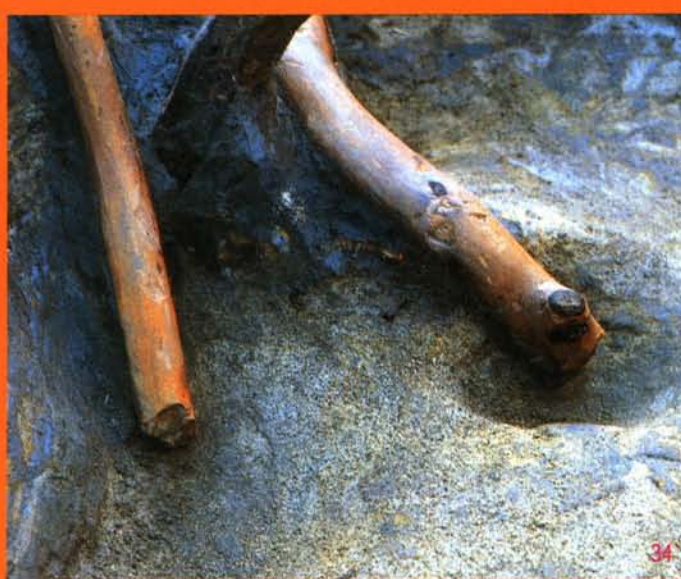
31 逆茂木・立杭他 SX02西部

32

33

32 SX02東部 逆茂木
 33 32の拡大
 34 SX02西部 逆茂木の基部
 35 34の拡大

防御施設



34

35

特殊な構造物



36 61E区SX01 南東から見る

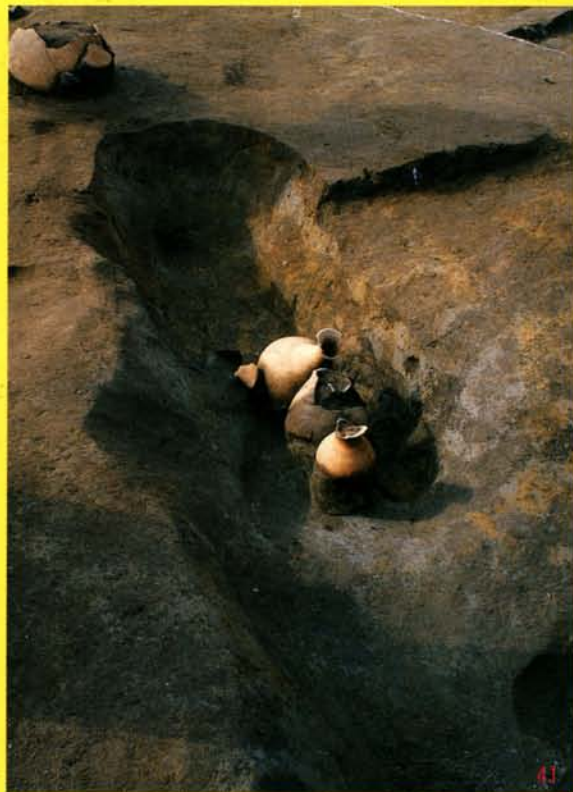


37 36の近景

遺物の出土状態



- 38 62 | 区SE01 土器群上位
 39 62 | 区SE01 土器群中位
 40 62 | 区SE01 土器群下位



- 41 60E区方形周溝墓間の供献土器
 42 63D区環濠間盛土下出土の大形器台



43 61A区東壁

土層セクションのいろいろ



44 谷B北壁1 63B区



45 谷B北壁2



48 60B区谷A東壁



47 61A区SD III



50 61N区SZ208東周溝



61 61T区SZ301北周溝



49 60B区SD III



49 60B区SD II b



52 89B区SK72



53 89B区SZ162墳丘 ベース土のブロック

調査風景



サンプリング



はぎ取り

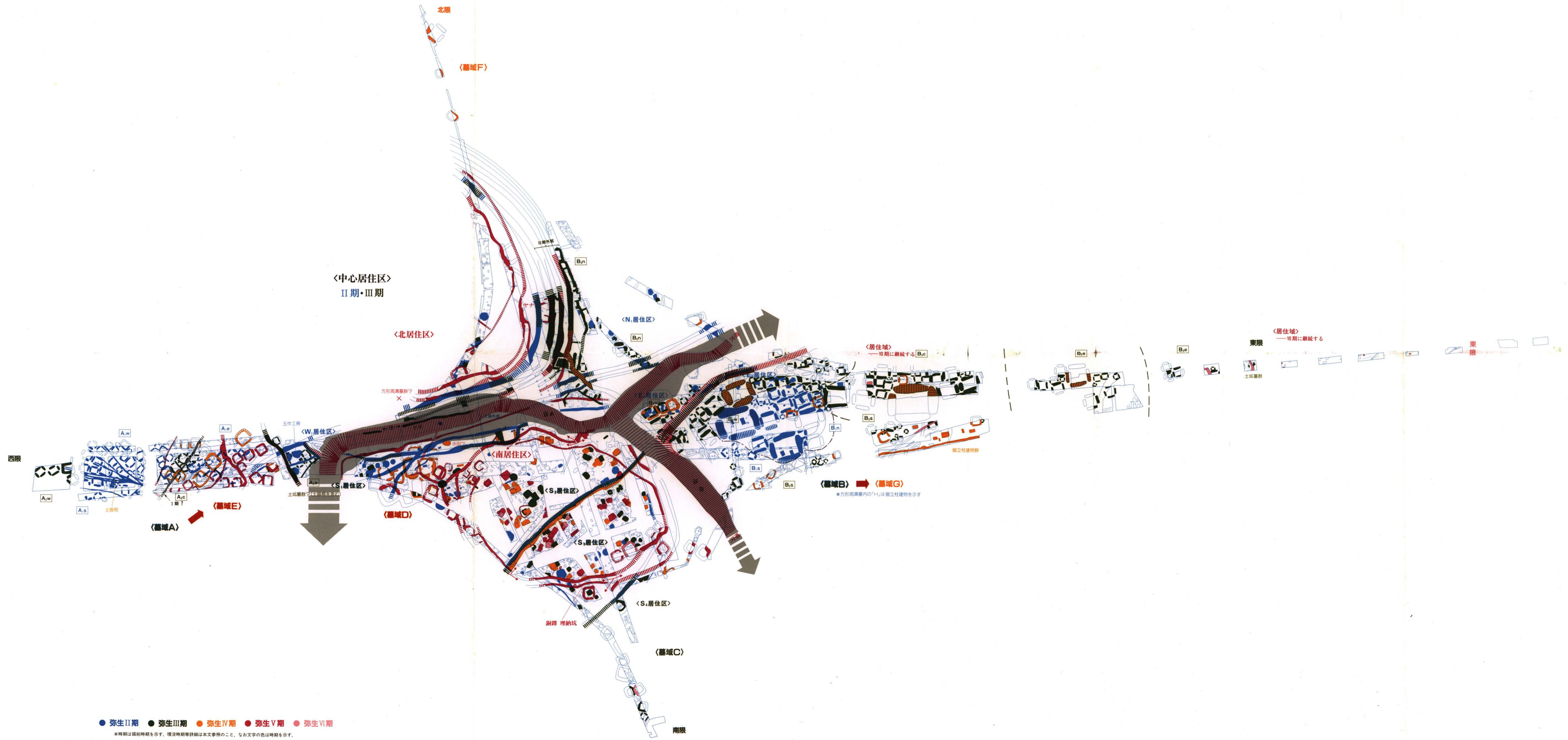


現地説明会



朝日遺跡弥生時代全体図

スケール 1:1600



● 弥生II期 ● 弥生III期 ● 弥生IV期 ● 弥生V期 ● 弥生VI期
 ※時期は掘削時期を示す。埋没時期等詳細は本文参照のこと。なお文字の色は時期を示す。



朝日遺跡全体図〔中世〕

1:1000

*黒丸は県教育委員会調査区での検出例

朝日西遺跡
(中世集落)

〈湿地?〉

方角単位 a

〈湿地〉

方角単位 b

ページ	行	誤	正
例言 6		第Ⅱ部第1章1	第Ⅱ部は第1章1
25	図8		誤
			正
26	1	第 図	第 3 図
38	32	Vと再掘削の	VとV期末からVI期初頭再掘削の
40	1	同じVI期だが、	VI期だが、
40	3	VI期に	VI期(V期末に遡る可能性はある)に
43	16	主体部4は	主体部3は
43	18	部4の	部3の

ページ	行	誤	正
81	図58		
83	図60		
89		※スクリーン・トーン部分は編物	※スクリーン・トーン部分は編物・植物茎
90		※スクリーン・トーン部分は編物	※スクリーン・トーン部分は編物・植物茎
127	4	V期とVI期	V期とV期末からVI期

愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第30集

朝 日 遺 跡 I

1991年3月31日

編 集 財団法人
発 行 愛知県埋蔵文化財センター

印 刷 株式会社 クイックス